



商標法<第1次改訂版>
平尾正樹 著
学陽書房 発行
A5版 605頁 6,615円(税込)

本書は2002年に刊行された著者による「商標法」の改訂版である。地域団体商標制度の創設等、近年の法改正に対応して改訂されたもので、最新の体系書として構成されている。

本書の特色は、誰にでも分かる平易簡明な商標法の体系書とすることを念頭に、商標法の理解にはその基本法である民法、民事訴訟法等の理解が必要であるとの観点から、各項に関連して適宜これら基本法の基本概念等の説明がなされるとともに、各項の理論がリアルな世界でどのように解釈され、運用されているのかを豊富な判例を紹介することによって読者に示唆を与えている点にある。なお、本改訂版では新たに新規判例が約94件追録されている。

本書でも多くのページが割かれているが、一般的に、商標の実務経験がない者あるいは経験の浅い者にとって、商標の識別力、類否、商標権の効力等を理解することは容易ではない。理論だけでこれらを理解することはおそらく不可能であろう。そこには商標の本質的な難しさがあるからである。すなわち、商標の理解には、その商標と商品・役務との関係、商標それ自体の態様（構成態様）、商品・役務への表示態様（表示のされ方）、その時々々の社会実情等、種々の要素からの考察が必要となる。加えて、ある時点での理解が別の時点での理解と必ずしも一致するものとは限らない。商標がしばしば“生き物”といわれる所以である。

本書とともに豊富な判例等にあたることで、この“生き物”の姿を捉える一助となるのではないだろうか。
(パテント編集委員：斉藤 康)

お詫び

この度ご協力頂きましたアンケートにつきましては、次号以降の掲載予定で検討しております。

パテント編集委員会

From Editors

編集後記

知的財産権を実際に使う立場にある各企業では、様々な知財戦略がとられているはずですが、知財立国を目指す日本の弁理士としては、企業の知財戦略が、今後はますます大きく関係してくると感じています。弁理士も知財戦略について研究し、知財戦略について企業側に提案することや、お付き合いさせていただいている企業の知財戦略をよく理解し、その知財戦略に沿った権利取得をお手伝いすることが、質の高いサービスを提供することにつながると考えます。今回ご紹介することができたいくつかの事例は、ほんの一例であり、その企業や商品に限ったことかもしれませんが、企業の知財戦略を考えるにあたり、これらの事例は大変参考になると思います。

末筆ながら、貴重な情報をご披露していただいた方々に、この場を借りてお礼申し上げます。
(boo)

今回、初めてパテント誌の編集に参加させていただきました。ご執筆頂いた原稿を実際に出版物の形にし、発行するということの難しさを肌で感じました。今まで、何気なく眺めていたパテント誌ですが、私自身、今後は、一冊のパテント誌が完成するまでには、多くの方々の、多くの労力が費やされているということを忘れることなく、できるだけ全ての頁に目を通すように心掛けたいと思います。
(Y. T.)

今月号の特集は「企業の知財戦略」です。特許事務所の顧客の多くは企業です。顧客である企業の知財戦略を念頭に日々の仕事をする事の重要性を感じています。弁理士としては、顧客である企業の立場に立って、権利化や、その他のサービスの

提供が必要であると思うからです。そんなわけで、今月号が皆さんのお役に立つものと信じております。
(T)

初めてパテント誌の編集で右も左も分からず、戸惑うことも多々ありましたが、先輩の編集員の先生方にも助けられて、何とか完成まで辿り着くことができました。また、多くの論文や報告を通して、企業や大学などの方々の知的財産に対する取り組みや考え方を知ることができ、編集作業を通して貴重な情報を得ることもできました。今回は2月号ということで、年末年始のお忙しい時期に執筆作業をお願いすることとなりました。執筆を引き受けて下さった企業知財部担当者の方々や先生方に、心より御礼申し上げます。
(M)

私は特許事務所に勤務する日常を送っているところ、お客様と同じ目線で仕事をしていくことが大切だと思っていた。知財担当者のディスカッションの記事やデンソーの外国知財戦略の記事では企業知財活動をわかりやすく紹介してくれている。私にとっては、お客様の日常業務を知るいい機会になった。

また、医療系の分野における知財活動は私の知らない領域であり、「新しい医療技術の普及と知的財産教育」を読んで新しい視点を与えてもらった。医療分野における知財活動は今後益々議論されるテーマであろうと思われる。

「MOTのススメ」には仕事上の発想のヒントが沢山紹介されていて興味深く読ませていただいた。この記事にもあるように、常にアンテナを高くもって幅広い知識の獲得につとめ、自分にも周りの人にも幸運を呼びこめるセレンディピティを身につけたいと思う。

今回は私にとって有益な記事ばかりであり、原稿を読むのが楽しかった。一番勉強させていただいたのは、まぎれもなく私であろう。
(耕)

次号予告【2007年3月号】

次号、パテント誌3月号では、改正意匠法や水際問題との関係における意匠法といった意匠に関する記事の掲載を予定しております。

また、内外の弁理士業務に関するものから権利侵害に関するものまで、これまで会員の皆さまからお寄せ頂きました選りすぐりの投稿原稿を多数掲載する予定でおります。

さらに、次号からは、新企画として、知財流通流動化検討委員会編の連載企画も始まります。

是非、ご期待下さい。